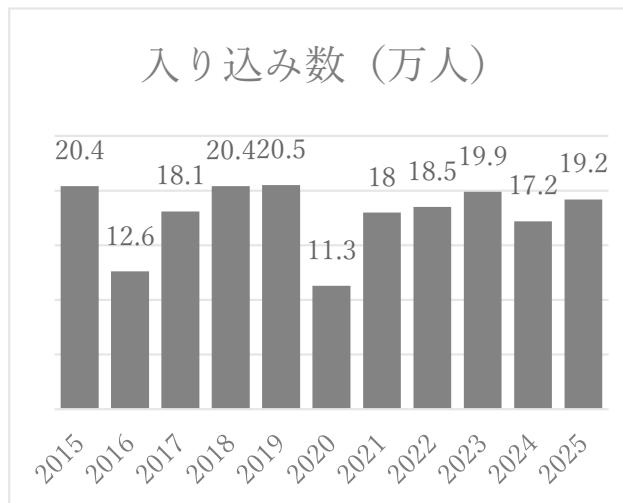


2024/25 シーズンの滋賀県スキー場傷害分析

安全対策部ドクター委員会 SAJ ドクターパトロール 橋口 淳一

【はじめに】2025年2月の1か月間に滋賀県内の6スキー場(グラススノーオー伊吹、びわ湖バレイ、箱館山、余呉高原、朽木、Ohana Resort:旧国境スノーパーク)にご協力をお願いして、来場者の傷害データを収集し分析を行った。

【入り込み数】6スキー場の入り込み(来場者)数は19万1689人であった。2024-25シーズンは近年の中で比較的積雪に恵まれた。このため朽木スキー場が営業されたこと及び旧国境スノーパークがOhana Resortとして新たに営業されたため、前シーズンより約2万人の増加となった(図1)。



(図1) 2月の総入り込み数の推移

【傷害者数】2025年の傷害者数はスキー76人、スノーボード137人であった(図2)。



(図2) 傷害者数

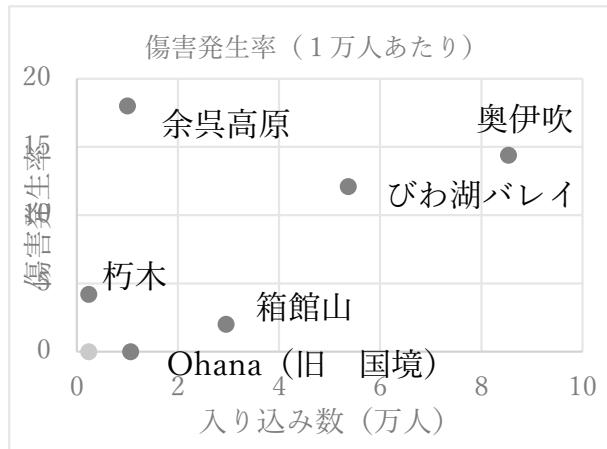
入り込み数1万人当たりの傷害者数(傷害発生率)はスキー4.0人、スノーボード7.2人、合計11.2人であった。前年と比較するとスキーは増加。スノーボードは減少した(図3)。



(図3) 1万人当たりの傷害発生率

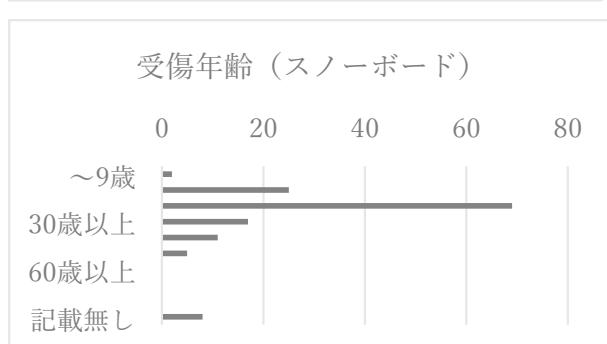
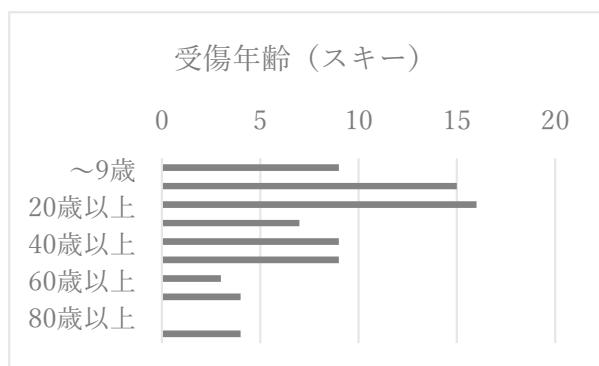
入り込み数1万人当たりの各スキー場の傷害発生数(傷害発生率)は、余呉高原、グラススノーオー伊吹、びわ湖バレイ、朽木、箱館

山、Ohana Resort の順に、18.0、14.4、12.1、4.2、2.0、0 であった（図4）昨年と比べると、余呂高原とグランスノー奥伊吹は増加。びわ湖バレイ、箱館山は減少した。朽木スキー場は傷害者 1 名。Ohana Resort は 0 人であった（図4）。



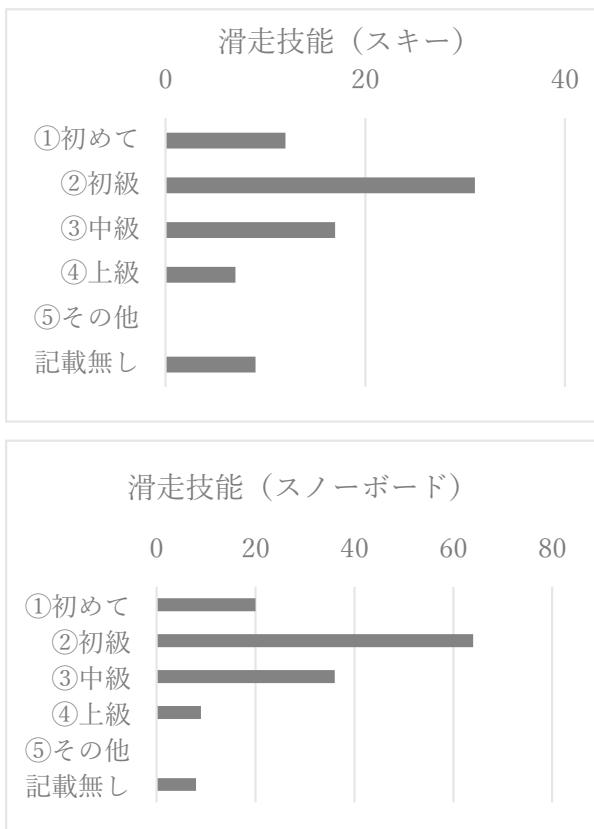
（図4）各スキー場における傷害発生率
(入り込み数 1万人当たり)

【年齢】傷害者の年齢分布は、スキーでは各年代に広く発生しているが、スノーボードは 10 歳代と 20 歳代の占める割合が高い。特に 20 代は、全体の 50.4% と半分以上であつた。（図5）



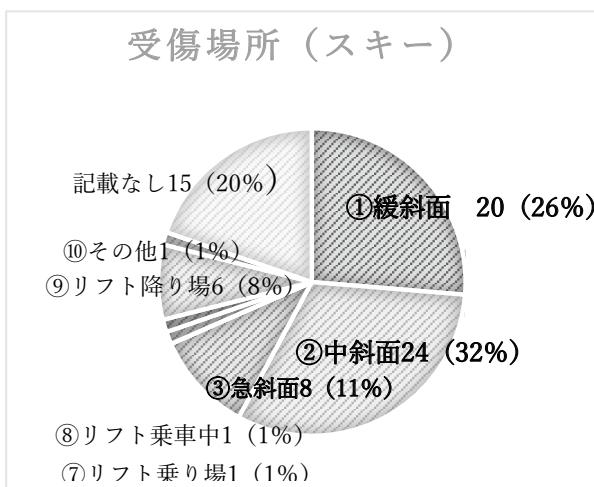
（図5）傷害者の年齢分布

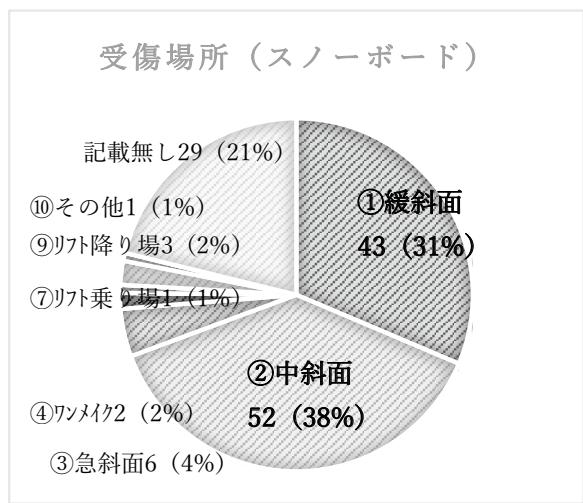
【滑走技能】傷害者の滑走技能はスキー、スノーボードとともに「初めて」と「初級」で半数以上の割合を占める。スキーは 57%。スノーボードは 62 % であった。（図6）



（図6）傷害者の滑走技能

【受傷場所】緩斜面と中斜面での受傷がスキーで 57.8%。スノーボードで 69.3% であった。例年と同じ傾向であった。（図7）

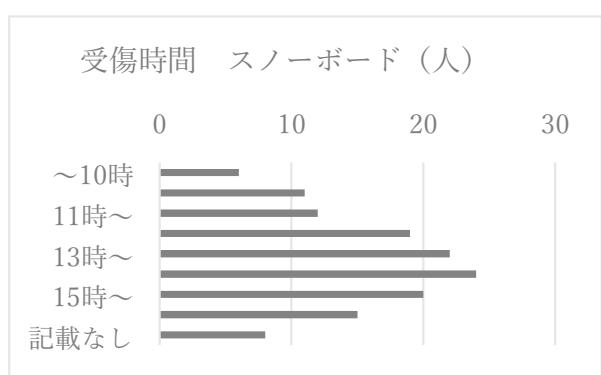
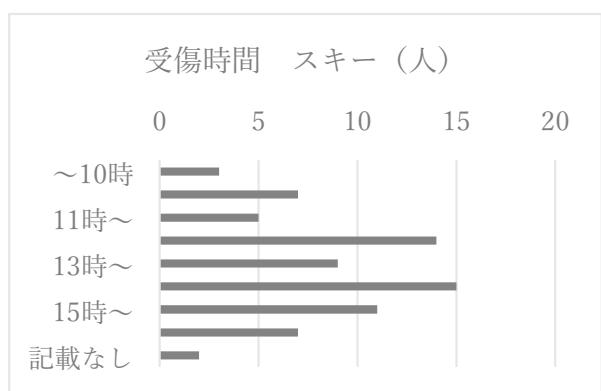




(図 7) 受傷場所

【受傷時間】スキー、スノーボードとともに12時から14時台の受傷が多く見られた(図8)

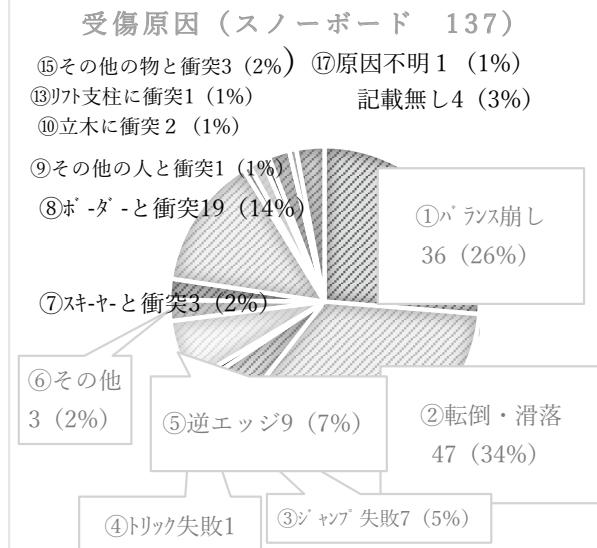
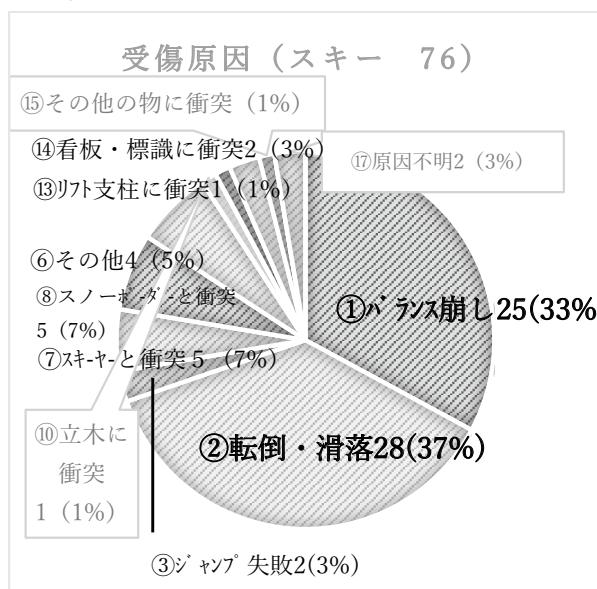
【受傷時の天候】スキー、スノーボードとともに晴れている時の受傷が最も多く、スキーは54% (41/76) スノーボードは42% (58/137) であった。降雪時の受傷はスキーは17% (13/76) スノーボードは28% (39/137) であった。



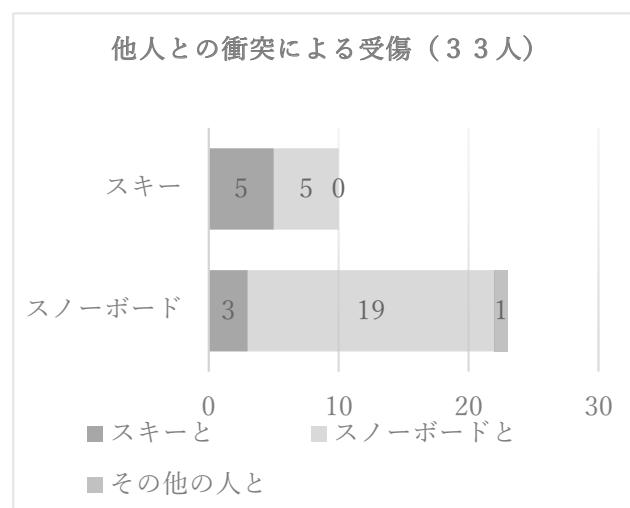
(図 8) 受傷時間

【受傷原因】「バランスを崩し」「転倒・転落」が多く、スキーは70%。スノーボードは60%を占めた。スノーボードはスキーと異なり、逆エッジやジャンプ・トリック失敗が見られた。

(図9-1)他人との衝突による受傷は33件であった。スキー同士の衝突は5件、スキーとスノーボードの衝突は5件。スノーボードとスキーヤーの衝突は3件、スノーボード同士の衝突は19件であった。スノーボードがかかわる衝突が85%であった。(図9-2)

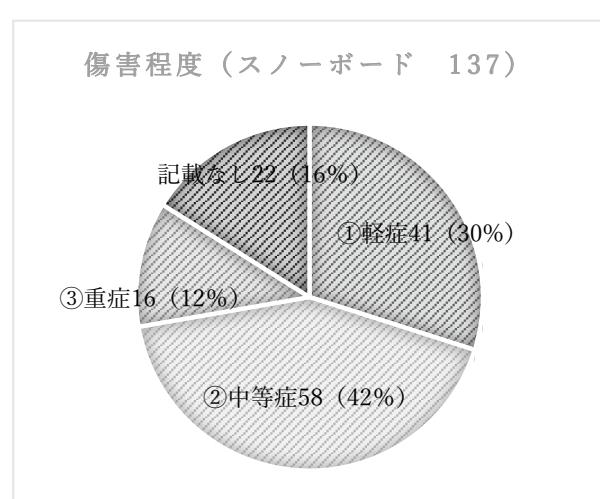
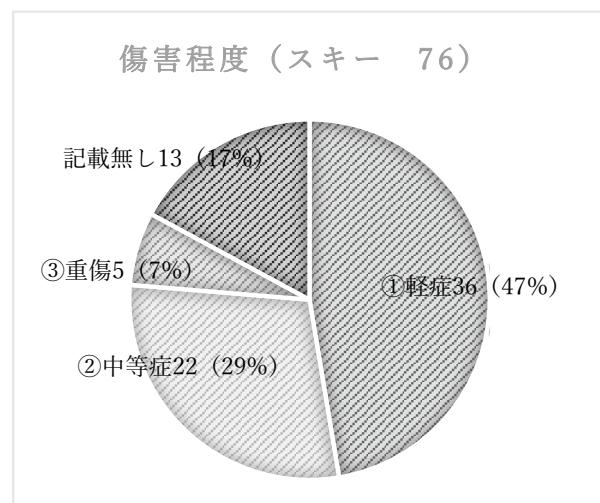


(図9-1) 受傷原因



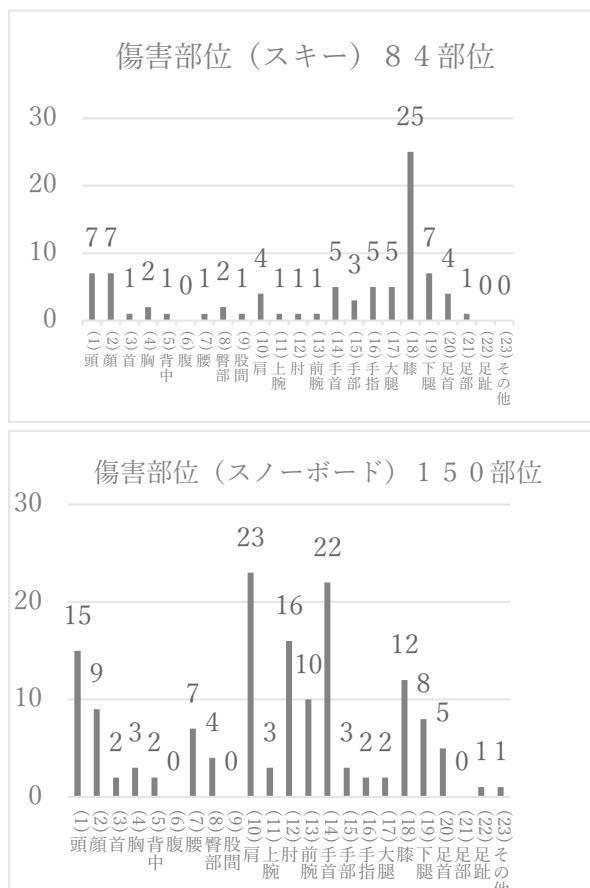
(図9-2 他人との衝突による受傷)

【傷害程度】期間内の死者は0人であった。重傷者はスキー5人、スノーボード16人であった。(図10)



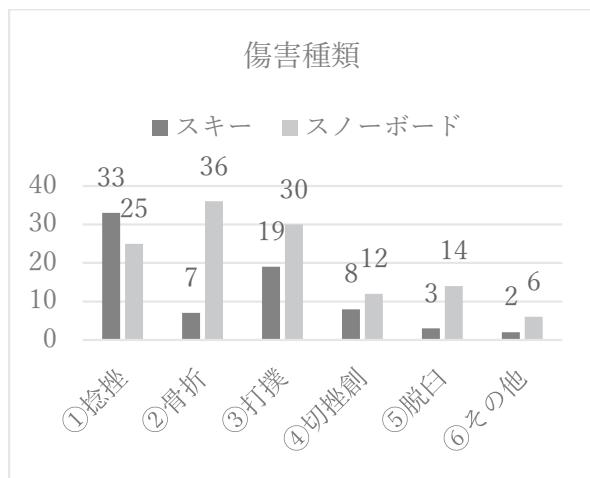
(図10) 傷害の程度

【傷害部位】スキーでは膝が最も多かった。スノーボードでは肩が最も多く、手首、肘と上肢の外傷が多く見られた。頭や顔も比較的多く見られ、例年と同じ傾向であった。(図11)



(図11) 傷害部位

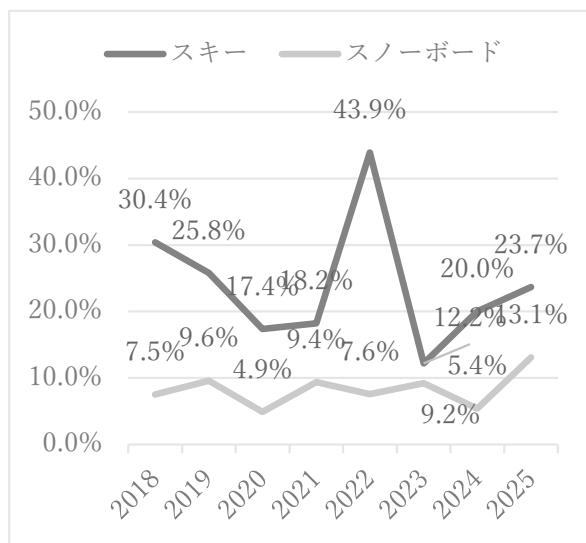
【傷害種類】スキー、スノーボードとともに捻挫、打撲、骨折が多いが、スノーボードは骨折が多く見られた。(図12)



(図12) 傷害の種類

【傷害保険】「自分自身の傷害保険に加入している」と回答したのは、スキー15.8%（12/76）スノーボード 22.6%（31/137）、「相手に対する賠償責任保険に加入している」と回答したのは、スキー2.6%（2/76）、スノーボード 0.7%（1/137）と極めて低かった。記載されていない用紙も多く、適切に質問されていない可能性もある。

【ヘルメット着用】傷害者のヘルメット装着率はスキーで 23.4%（18/76）スノーボードでは 13.1%（18/137）であった。ヘルメットの装着率は依然として低い。（図 13）



(図 13 ヘルメット着用率)

【考察】2024-25 シーズンは、朽木スキー場、Ohara Resort の営業にて入り込み数が増加したが、受傷者は微増にとどまり、直近 3 シーズンは傷害発生率が減少していた。初級者以下のレベルの滑走者が緩斜面・中斜面で「バランスを崩して」受傷する数が多いのは例年と同じ傾向であり、これをゼロにすることは不可能である。しかし、ヘルメットやプロテクターの着用にて、傷害の重症度を下げるることは可能である。ヘルメットやプロテクターを装着するよう啓蒙活動

をさらに行うとともに、廉価での販売やレンタルの充実が図られたら良いと考える。次に傷害保険への未加入や加入しているかわからない方が非常に多かた。交通事故と同様に“万が一”の時の保険は大事であるので、簡易に加入できるシステムが充実すればよいと考える。また傷害調査データの未記入が一定数見られた。受傷原因や状況が詳細にわかれば、さらに信頼性の高い結果が得られる。パトロールの方が多忙であるのは十分理解しているが、今後のデータをさらに活用していただくためにも、データの未記入を減らしていただければと考える。

【さいごに】滋賀県内の 6 スキー場(朽木、グランスノー奥伊吹、箱館山、びわ湖バレイ、余呉高原、Ohara Resort)の関係各位には、シーズン中の忙しいところ、傷害調査にご協力をいただき、誠にありがとうございました。この傷害データを参考いただき、傷害発生の予防や対策に生かせていただけました幸いです。来年以降も、データ記載の充実にご協力とご助言を宜しくお願い申し上げます。